

病害虫発生予察注意報（第2号）

令和7年7月9日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：タバココナジラミ

作物名：トマト、キュウリ

1 発生地域：県内全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 6月の巡回調査での、露地トマト・露地キュウリ及び露地ナスのタバココナジラミ寄生葉率が、5.2%（平年1.5%）、13.9%（平年3.0%）、12.6%（平年3.3%）となり、露地トマトでは過去10年で2番目（図1）、露地キュウリ及び露地ナスでは過去10年で最高となった（図2、露地ナスはデータ省略）。
- (2) 5月の巡回調査において、冬春トマト及び冬春キュウリのタバココナジラミ寄生葉率が、9.1%（平年3.4%）、0.6%（平年0.1%）となり、冬春トマトでは過去10年で2番目（図3）、冬春キュウリでは過去10年で最高となった（図4）。
- (3) 気象庁が7月3日に発表した向こう1か月の気象予報では、気温が平年より高いと予想されることから、タバココナジラミの増殖に好適な条件が続くと考えられる。

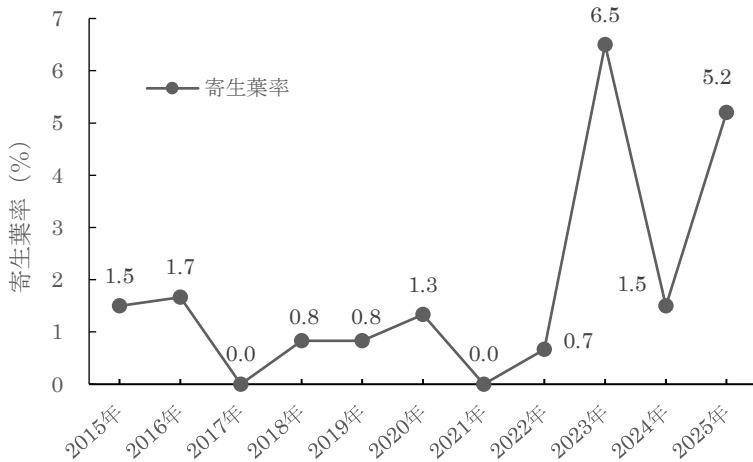


図1 露地トマトにおける6月のタバココナジラミ寄生葉率（2015～2025年）

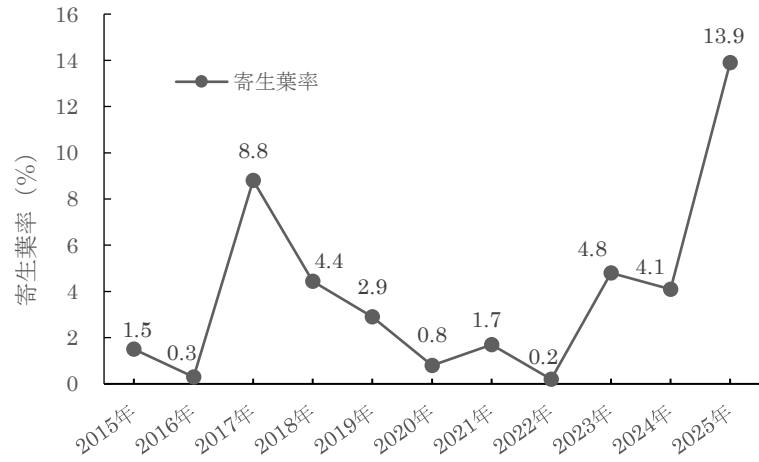


図2 露地キュウリにおける6月のタバココナジラミ寄生葉率（2015～2025年）

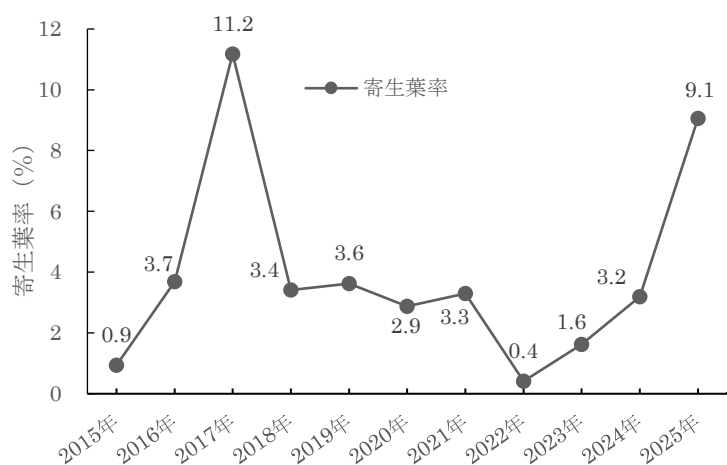


図3 冬春トマトにおける5月のタバココナジラミ寄生葉率（2015～2025年）

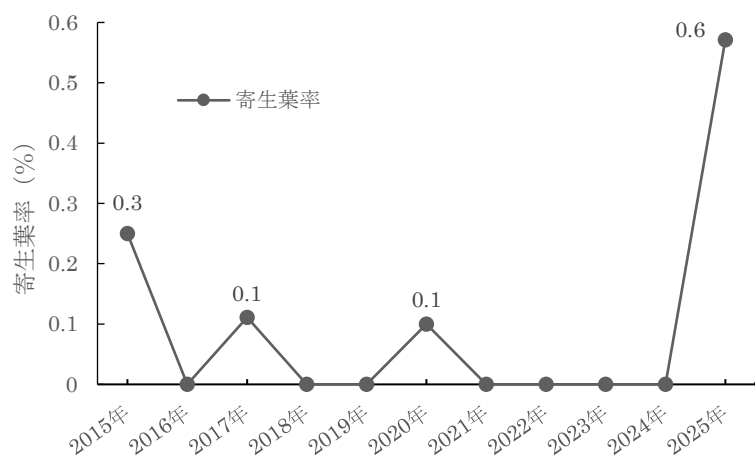


図4 冬春キュウリにおける5月のタバココナジラミ寄生葉率（2015～2025年）

4 防除対策

- (1) タバココナジラミは、トマトではトマト黄化葉巻病及びトマト黄化病のウイルスを、キュウリではキュウリ退緑黄化病のウイルスを媒介する。生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期からの防除を徹底する。
- (2) 抵抗性を発達させないために、同じ系統の薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (3) 施設栽培終了後は、微小害虫の分散を防止するため、栽培終了後に7～10日以上施設の密閉・蒸し込みを行う。
- (4) 施設開口部（出入口、天窓等）には、目合い0.4 mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。
- (5) 施設内外の雑草は害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。
- (6) ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html